

1. 科目名 (単位数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2319						
2. 授業担当教員	根岸 祥子								
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表	5. 開講学期	春期 (王子) 秋期 (池袋)						
6. 履修条件・ 他科目との関係	「解剖生理学」の履修後、または履修中が望ましい。								
7. 講義概要	<p>近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物 (覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど) の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 								
8. 学習目標	<p>以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性 (副作用) の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート 課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報 (効果、作用機序、副作用など) を調べ、レポートを提出する。詳細および提出時期は授業内で発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する 								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】吉岡充弘ほか『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』第 15 版 医学書院 2022</p> <p>【参考書】木澤靖夫監修『いちばんやさしい薬理学』成美堂出版 2022 柳田俊彦編『薬の基本とはたらきがわかる薬理学』羊土社 2023</p>								
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 用量-効果相関を基に、人体と化学物質 (薬物) との相互関連について理解しているか。 2. 学校現場、家庭で使用している医薬品の作用について理解しているか。 3. 薬物乱用の概念を理解し、乱用防止策のビジョンを持てるか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験</td> <td>40%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%	2. 課題レポート・発表	30%	3. 期末試験	40%
1. 授業への積極的参加 (授業態度、発言)	30%								
2. 課題レポート・発表	30%								
3. 期末試験	40%								
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 口頭発表の方法を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンの目的外使用を禁止します。 10. 本学の規程によって、3/4 以上の出席が確認されない場合は単位の修得を認めません。 								
13. オフィスアワー	初回授業で通知します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	薬理学とは何か	事前学習	教科書 pp. 4~14 を読み、薬理学とは何かを考える。						
		事後学習	薬物の使用目的をまとめる。						
第 2 回	医薬品に関する法律、新薬開発、処方薬と市販薬	事前学習	教科書 pp. 54~63 および pp. 327~335 を読み、概要を理解する。						
		事後学習	医療用医薬品と一般用医薬品の違いについてまとめる。またジェネリック医薬品について理解する。						
第 3 回	薬の効果発現 (用量-効果相関、吸収・分布・代謝・排泄、効果器と受容体)、投与方法の違い	事前学習	教科書 pp. 16~54 を読み、概要を理解し疑問点をまとめる。						
		事後学習	薬物の吸収・分布・代謝・排泄および投与方法についてまとめる。						
第 4 回	感染症と抗感染症薬 (抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)	事前学習	教科書 pp. 68~101 を読み、病原体の種類とその感染症薬の違いを理解する。						
		事後学習	抗菌薬、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・範囲と副作用についてまとめる。						

第5回	消毒薬	事前学習	教科書 pp. 306～312 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬とヒトへの影響についてまとめる。
第6回	アレルギーと炎症の治療薬（ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬）	事前学習	教科書 pp. 130～140 を読み、アレルギー反応と炎症の発現機序を理解する。
		事後学習	アレルギーおよび炎症の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめる。
第7回	呼吸器系に作用する薬物（気管支拡張薬、鎮咳薬、呼吸促進薬）	事前学習	教科書 pp146～151 を読み、末梢神経による情報伝達を理解するとともに、240～244 を読み、喘息の原因と症状を理解する。
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用についてまとめる。
第8回	中枢神経に作用する薬（鎮静催眠薬）	事前学習	教科書 pp166～168 を読み、中枢神経の構造と機能を理解する。
		事後学習	抗不安薬、催眠薬の種類と作用メカニズムについて理解する。
第9回	鎮痛薬（解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬）	事前学習	教科書 p. 140, p115 および pp. 189～193 を読み、痛みの発現機序について理解する
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる
第10回	保健室にある薬（薬理作用と使用上の注意点）	事前学習	第1回～第9回の授業内容を復習する。
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、またディスカッションした内容についてまとめる。
第11回	薬物依存・乱用（興奮系薬物・抑制系薬物・幻覚系薬物）	事前学習	教科書 p. 54 および事前配付資料を読み、薬物使用の有益性と危険性について理解する。
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考えを含めてまとめたレポートを提出する。
第12回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する
第13回	アルコール・飲酒	事前学習	事前配布資料を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第14回	ニコチン・喫煙	事前学習	事前配布資料を読み、タバコやタバコの煙に含まれる成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第15回	カフェイン/喫茶・漢方薬・サプリメント	事前学習	事前配付資料および教科書 pp. 298～304 を読んで、病態（証）と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	カフェインの功罪、幼児や妊婦への影響、漢方薬・サプリメントの有効性の真偽を考察する。
期末試験			